

三島菅未苗在時待者不著也將成三島菅笠。

〔夫木和歌抄七早苗〕寶治二年百首早苗

あめすぐるますげのをがさかたよりにをたのさをとめさなへとる也

〔我衣〕貞享ノ比ヨリ三度笠ドテ、飛脚馬上ニテ子ブリ、落馬シテモ、鼻ヲウタヌヤウニ、深クシタル

菅笠旅人カムル者多シ、享保ノ末ヨリ道中笠ニ定ル、

〔守貞漫稿二十九〕三度笠大深トモ○圖略

菅笠ノ一種也、三度飛脚用之、故ニ名トス、深クスルコトハ、誤テ落馬スルコトアル時、面部ヲ疵セザル備歟、又ハ四時風ヲ防ヲ要ス歟、此笠貞享中始テ製之、文化以前ハ、旅商專ラ用之、文化以來ハ雷盆形ノ菅笠ヲ用フ、飛脚宰領ハ今モ三度笠ヲ用フ、

〔我衣〕男笠ノ事、菅笠ヲ元トス、サレドモ張笠筍笠、古風ナリ、デン由ト云、菅笠ヲ用ユ。○中上總ヨリ出ル、デン中ト云、菅笠也、伊勢ヨリモ來ル、貞享ヨリハヤハ、女モ是ヲ用ユ、元祿迄、女ハ紙ヲ四角ニ折テ、アズヒモヘアテ口ヲカクス、正徳ヨリ大シ、武家ハ寶永比マデ有シ。○下略

〔守貞漫稿笠二十九〕一文字菅笠一名殿中

菅笠ハ、今世モ加賀産ヲ專トス、一文字笠、士民トモニ用之ト雖モ、武家旅行及ビ行列ノ時ニ、士ハ專用之トス、大名旅中、若步行ノ時ハ用之、他ニ用スルコト稀也、一文字ニハ、紐必テズ白晒木綿締笠枕モ同品也、三都トモニ然リ、

追考、此圖○圖ノ如キハ、殿中ト云、一文字形ハ、勾陪ナキ物也、

〔我衣〕天和比ヨリ、武士熊谷笠ヲ冠ル、○中役者古來ハ、一文字笠ヲカムル、是ヨリクマガイニナル、

○下略

〔守貞漫稿笠二十九〕俗ニザン。サラ。笠ト云、菅笠ノ一種、○圖

常磐井入道太政大臣